

地域の人が学校を見る目が変わった！



最近地域の子どもたちは変わってきたね

- ・あいさつがよくできる。
- ・ボランティア活動にも熱心になった。



学校に行くのも楽しいね

- ・自分が活躍できる場があると行きやすい。
- ・子ども達が話しかけてくれると心がなごむ。



今の学校の状況がよく見えてきたね

- ・先生が地域行事に参加するようになった。
- ・小中学校連絡会で現在の問題を共有できる。

課題1 様々な壁を少しずつ破ること

まだまだ沢山の壁が残っているが・・・

成功体験の積み重ねが財産になるはず

★**学校施設の壁**...安全は閉ざされた空間では確保されない。閉鎖か開放か

★**先生の意識の壁**...行政の持つ依存体質、専門職のプライド、他人に頼ることが苦手

★**地域住民の遠慮の壁**...学校は敷居が高い、子どもの頃の記憶、思い出は温かいはず

課題2 受益者から当事者への意識改革

(学校側の意識の課題)

地域がやってくれるから、やってもらうでは甘え。
本当に必要とすることは何かを考える必要がある。
地域の協力を、何で報いるか。共に汗も時に大事

(地域側の意識の課題)

学校側の都合も聞かず、押し売りになっていないか。
先生に求めるレベルが必要以上に高くなっていないか。
個人の熱い思いが独り歩きする現実もあるのでは

**定期的に互いの意思確認のために
“熟議”の場が必要だ！**

課題3 子ども達の顔が見える地域に

子ども達にできることはやってもらう

学校が子ども達を、地域に出すことが前提条件
子ども達が地域の中で果たせる役割は無限大
子どもは認められ、ほめられて自尊感情が高まる。

子ども達の発想を地域づくりに活かす

大人たちと一緒に語り合うことは相互に貴重
子ども達の評価こそが地域の現状を示す評価指標

子どもと触れ合う機会が多くなればなるほど、
大人は何とかしなければと思うもの。

評価と成果・・・地域力が知らぬ間にパワーアップ

何よりも、地域づくりのキャッチフレーズ

「自分たちの地域は自分たちの力で」が定着してきた。

1

・ 子どもから高齢者まで、一緒に活動する機会が増えた。

2

・ 子どもが地域の大人と日常的に交流できるようになった。

3

・ タテ割り意識が、ネットワーク重視に変わってきた。

4

・ 前例踏襲から新規創造に挑戦するムードに転換してきた。

5

・ 学校の課題に地域全体で立ち向かう意識が生まれた

6

・ 子ども達が学校で落ち着いてきた。(特に運動会を見て)

これから取り組みたい事業は・・・

子ども達の学力向上プロジェクト

- ・ 基礎・基本をきちんと身に付けられるよう支援できる仕組みをつくり、学力底上げを図る。

中学校生徒会と地域との連携強化

- ・ 中学生の企画が地域社会を元気にする原動力になる。子ども達のコミュニケーション能力を高める。

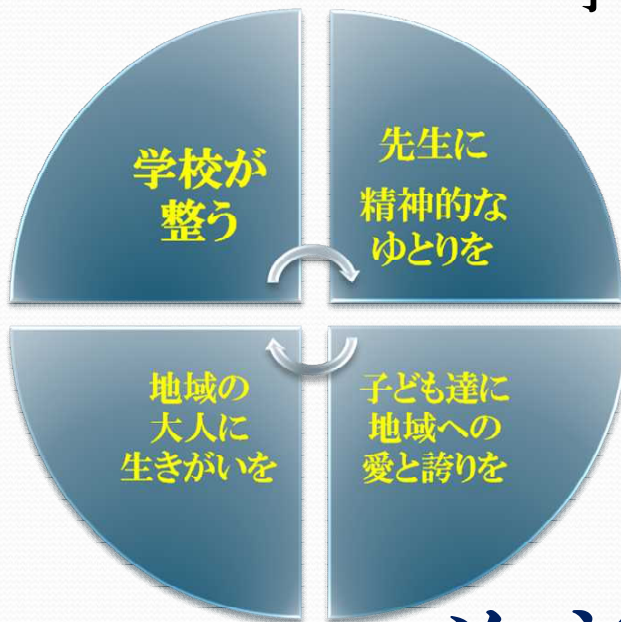
小学校でまちづくりを学ぶ授業を展開

- ・ 総合的な学習の時間で、地域の住民が講師になって子ども達にまちづくりの心のタネをまく。

泉川流 コミュニティのスクールづくり

地域全体を子どもの育ちのプラットフォームにすること

学校支援地域本部事業は
決して目的ではないはず



子ども達は
地域の中で
一人前の大人
になる

ソーシャルキャピタルの蓄積

おわりに... 私たちの地域の中学生の作文です。私たちの誇りです。

アイロードに花を植える作業をして、土をさわりと、とても心がなごんだ感じがします。泉川に花を植えることは、泉川が段々きれいな町になってきているのだと実感しています。自分が生まれ育った町は、昔から誇れる町だと自分では思っています。誇りを持てるという事は、すなわち魅力ある町づくりだと思います。国道11号バイパスというすばらしい道路が泉川校区の中心部を通り、新居浜市の玄関と言われている所に、花がたくさん咲き、校区の人みんなが、笑顔あふれてくれば、まわりの人達も、幸せになつてくれるような気がします。

僕は、いつもバイパスを通っています。その時、ある男の人が、暑い中草を抜いたり、水をあげていました。僕は、その人たちを見てとてもすばらしい人達だなと心から思いました。また、僕にできることは、協力していききたいと思えます。その為には、これからの町づくりに、一人ひとりの協力が必要だと思います。

まず一つとして、僕達にできることは、ゴミを落とさない、または落ちていくゴミを拾うことです。ゴミの落ちていく町は、いくら美しく花が咲いていても、きれいな町だとはいえません。一人ひとりが気をつけることにより、ゴミも一つずつ減っていくと思えます。

二つ目は、大人の人達とのあいさつをするということです。あたり前だと思つている「あいさつ」ですが、それができない人が増えてきています。一言声をかけることにより、地域の人達とのコミュニケーションがとれ、より交流が深まると思えます。

こうしたこと、自分から行動に移せるように、日々の生活の中で、しっかりと実行していきたいと思つてきました。そして、これからの泉川校区が地域の人達により支えられ、僕達中学生も生まれ育った校区に誇りを持ち、これからもドンドン、活性化していけばいいと思えます。